

クールジャパンに係る外務省の取組

外務省

- 在外公館や国際交流基金の海外事務所、ジャパン・ハウスといった現地に密着した拠点を活かし、伝統文化からポップカルチャー、和食、日本酒に至るまで、日本の多様な魅力を世界各地で発信している。
- 他方、現在は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、渡航を伴う招へい・派遣・交流事業や、集客を伴う文化・広報事業は、ほぼ全面的な見合わせを余儀なくされている。当面は、コロナ禍でも活用可能な各種媒体（ネット、広報誌、TV、SNS等）を通じた発信の強化に引き続き取り組みつつ、ウェビナーを始めとするオンライン・イベント等の実施を目指す。



「ナッシュビル桜祭り」

(令和2年4月 於:米国)

オンライン上で和太鼓公演や桜の花の切り絵の実演等、約60組にも及ぶ個人・団体が動画を通じて参加。想定を倍近く上回る約8000件のリーチや300件以上の「いいね！」を獲得した他、主催者である在ナッシュビル総領事館のSNSフォロワー数が200人以上増加。



「日本の食文化に関するオンライン講演」

(令和2年6月 於:スペイン)

農林水産省より「日本食普及の特別親善大使」に任命されたスペイン人専門家を講師として、寿司文化に関するオンライン講演会を実施。事業実施後、主催者である在バルセロナ総領事館のSNSフォロワー数が200人以上増加。



「アニメ・オンライン講演」

(令和2年7月 於:アルゼンチン)

国際交流基金派遣の専門家を活用し、ジブリ作品を中心に日本アニメの伝統と革新等についての講演を2回にわたり実施。質の高い講演が現地メディアでの報道につながり(テレビ番組での告知放送の他、現地紙に22本の記事が掲載され、計約300万人が閲覧)、波及効果の高い文化事業を実現。主催者である在アルゼンチン大使館のSNSフォロワー数が約440人増加。



「Web Japan」

日本の魅力を海外の一般人に伝え、対日理解の促進、親日感情醸成を目的に、ポップカルチャーやファッション&デザイン等の情報発信、海外の子ども向けの記事を多言語で発信。年間1,800万(PV)を超えるアクセス。

クールジャパンに係る外務省の取組

外務省

- ▶ ジャパン・ハウスについては、3拠点とも今年3月中旬から休館しているが、オンライン事業を強化しつつ、現地の状況を見極めながら、必要な感染症対策を講じた上で再開すべく準備している。各拠点の再開状況・見通しは以下のとおり（令和2年9月3日現在）。
 - ・ロンドン：7月上旬から入場者数を制限し一部再開。全館再開は9月中旬を予定。
 - ・ロサンゼルス：9月中旬の再開を目指して調整中。
 - ・サンパウロ：9月中旬の再開を目指して調整中。

コロナ禍におけるジャパン・ハウスのオンライン発信の取組(例)

Twitter
505

Facebook
476

Instagram
309

YouTube
83

※休館開始日から7月末までの間の3拠点の発信件数。



3Dバーチャルツアー(ロンドン) (令和2年4月～)

令和元年に開催した画家で絵本作家の安野光雅氏の展示をウェブサイト上に公開する『安野光雅氏の展示の3Dバーチャルツアー』を実施。安野氏の絵本の旅の世界を堪能できる優れたバーチャルとして好評を博している。



漫画ワークショップ(ロンドン) (令和2年5月～7月)

日本人と外国人の漫画家が漫画の描き方をライブでレクチャー。参加者はアプリケーションを使い、質疑応答を通じて、双方向で漫画の書き方を学ぶイベント。視聴者が描いた漫画はジャパン・ハウスのSNSに投稿することで広く拡散でき好評。これまで11回実施し、累計1417名が参加した。



「体験キット」を使った参加型発信(サンパウロ) (令和2年7月～8月)

ジャパン・ハウス サンパウロのレストラン、カフェ、ショップが商品をセレクトし、「体験キット」を作成・販売。キット購入者を対象に日本酒カクテルの作り方や風呂敷を使った「もったいない」コンセプトを紹介。キットの内容は、日本酒、おつまみ、チョコ、風呂敷、商品の説明書。参加型のイベントを通じて、日本の食文化や商品の販売にも資するイベント。これまで2回実施し、延べ160名がライブで参加。参加者からの反応も好評で、シリーズ化を予定。



ウェビナーによる政策発信(ロンドン) (令和2年7月)

発信力の高いシンク・タンクであるチャタム・ハウスと共催で、全4回シリーズの第1回目として、「日英間の政治・安全保障協力」をテーマに日英の有識者が、「自由で開かれたインド太平洋構想」を含めたアジアの地域課題に対応するための日英協力について議論。29カ国から200名以上が参加。事後的な動画の発信にも努めており、閲覧数は短編版が3800回、全編版が338回(8月現在)。

コロナ禍における国際交流基金(JF)の取組み

令和2年9月
国際交流基金(JF)

国際交流基金(JF)は、コロナ禍においても、文化を通じた日本と世界のつながりを維持し、さらに発展させていくため、特別プログラムを実施。

- ▶ オンライン事業を含む文化交流活動への緊急支援事業
(国境を越えた人の移動を伴わない交流事業への助成等)
- ▶ オンラインでの文化発信・対話
(過去のフェローシップ・プログラム概要のウェブ上での公開、日本語ビジネスピッチコンテスト等)
- ▶ オンラインでの日本語教育支援*
(JFにほんごeラーニング「みなと」、ウェブ教材「いろいろ 生活の日本語」、オンライン教師研修等)

*eラーニングやウェブ教材は新型コロナウイルス発生以前から準備・運用していたが、コロナ禍の行動制約の中でも活用できる学習方法として利用を推進

全米桜祭り公演配信



(「さくら」を披露する森山直太郎氏)

- 2020年3月
- ワシントンD.C.での全米桜祭り(2020)へのアーティスト派遣等事業の延期・中止が余儀なくされた
- 派遣取りやめの代替策として、出演予定であった森山直太郎氏など3組の著名アーティストによる動画配信
- ページアクセス数約38万5千を獲得

オンライン配信日本映画祭



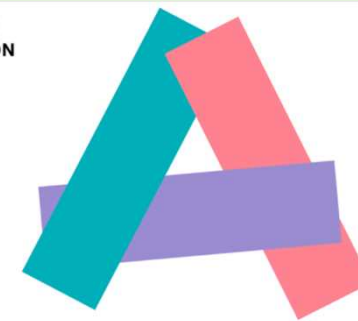
(映画『横道世之介』の主演 高良健吾氏等と映画祭アンバサダー マーク・チャオ氏との対談)

- 2020年6月
- 中国大手配信会社テンセントビデオと中国にてオンライン日本映画祭を実施
- テンセントビデオが61作品配信するとともに、配信作品の監督、主演俳優、プロデューサー等によるトークイベントを複数回、同社との共催により実施
- 特設ページアクセス数200万PV、トークイベント視聴者累計40.4万人を獲得

アジア・市民交流助成 (新型コロナウイルス対応特別プログラム)

THE JAPAN
FOUNDATION
ASIA
CENTER
Grant &
Fellowship
Programs

ASIA
center



(6月から募集中)

- 2020年7月～
- 日本及びASEAN10か国の人々が主体となって実施される、国境を越えた人の移動を伴わない共同事業への助成
- 従来予定していた様々な交流事業(制作、イベント、研究交流等)の中止や延期を受け、文化/芸術関係者・アーティスト・知識人・国際交流実践者が企画する代替事業の応募を奨励